

彙 報

第 50 回日本言語学会大会

国際基督教大学において昭和 39 年 5 月 16 日公開講演会, 5 月 17 日研究発表会・
会員総会を開催。

1. 公開講演会:

美学と文体論

小林 英夫氏

Danish Vowel System

Niels A. Ege 氏

2. 会員総会: 昭和 38 年度会計報告(別記)を承認, 昭和 38 年度秋季大会(第 51
回)は 11 月 14・15 両日, 広島大学において開くことになったと報告, 次ぎに, 委員
長から, アジア・アフリカ言語文化研究所設立問題に関して, 昭和 38 年度会員総
会において文部省当局宛の要望書提出につき支持されたことに対して感謝し, 且同
研究所設立問題の現状報告があった。

3. 研究発表会:

1) 信飛国境の言語分布

小林 滋子氏

2) 補助動詞の問題点

吉川 武時氏

3) 米語 Nominal Phrase の Style

牧野 成一氏

4) Proto-Austronesian *ben [i'] 'night' について

土田 滋氏

5) 朝鮮語の「濃音」の物理的性質

梅田 博之氏

同 規子氏

6) 古教会スラヴ語の形態論における y-2, i-2, e-2

栗原 成郎氏

7) J. L. Weisgerber の動的言語観について

倉又 浩一氏

8) タイ語からみたシャン語北部方言

大野 徹氏

9) 横浜方言の 1879~1964 の推移

浅井 恵倫氏

第 18 回九学会連合大会

昭和 39 年 5 月 24 日東京国立博物館大講堂にて開催。本会からの発表者は下の通
り。

下北方言の分布

柴田 武氏

昭和 38 年度第 5 回委員会

日 時: 昭和 39 年 2 月 15 日 17:00~19:30

場 所: アジア経済研究所

出席者: () 内は委任状受託数(委員総数 36 名)

浅井恵倫, 池上二良, 泉井久之助(4), 川本茂雄, 北村 甫, 金田一春彦,

高津春繁(4), 河野六郎(1), 小林智賀平, 小林英夫, 柴田 武, 鈴木孝夫, 徳永康元(1), 永島栄一郎, 服部四郎(5), 三根谷徹, 山本謙吾。

議決事項:

1. 第 11 回太平洋学術会議(1966 年) の件

同会議準備委員会(人類学部門)において討議された事業計画について三根谷委員から説明があり, 同会議における本会の果すべき役割について審議し, 準備委員会から組織委員会への切替えに際して本会からは従前の西田・三根谷両委員に継続しておねがいすると共に新たに, 浅井恵倫氏, 泉井久之助氏, 服部四郎氏の 3 氏を追加し, 同会議に計 5 名の組織委員を派遣することになった。

なお, 同会議人類学部門での言語学関係シンポジウム題目等については上記 5 氏に一任することになった。

2. 昭和 39 年度春季大会(第 50 回)に関する件。

1. 大会運営委員長を神田盾夫氏(本会評議員)に委嘱する。
2. 公開講演会の講演を N. Ege 氏(国際基督教大学教授), 小林英夫氏におねがいする。

3. 昭和 39 年度秋季大会(第 51 回)に関する件。

開催地広島大学の関本至委員からの申出に従い 11 月 7 日(土), 8 日(日), または 11 月 14 日, 15 日を開催予定日とする。

4. 昭和 39 年度予算の件。

『言語研究』の刊行計画は予算の許す範囲で行い, 刊行に特に不利な状態が生じた場合には改めて刊行を可能ならしめる方法を講ずる。

5. 九学会連合担当の金田一委員より次のような報告があった。

1. 東洋音楽学会は九学会連合に加入することを認められた。加入学会は計 10 となるが「九学会連合」という名称は改めないこととなった。
2. 連合大会は昭和 39 年 5 月 24 日共同課題「下北半島」をめぐって行われるが, 本会からは柴田武氏が研究発表をすることになった。

6. アジア・アフリカ言語文化研究所設立問題について委員長より現状報告があった。その要点は次の通り。

1. 同研究所は独立した国立の研究所ではなく, 東京外国語大学の付置研究所(ただし共同利用)とすることとなった。
2. 計画は 15 部門(講座)とし, 昭和 39 年度分として 5 部門を要求したが, 同年度予算に認められたのは 3 部門(一般言語文化, インドシナ第一, アフリカ)。なお 1 部門につき教授 1, 助教授 1, 助手 1, 研究職員 2。
3. 設立準備委員会(20 名)が組織されて本年 7 月 1 日開設を目標に活動することとなり, その第 1 回会合が昭和 39 年 2 月 15 日開かれ, 席上岡正雄

氏を所長に推薦することが決定した。なお準備委員会には本会委員としては、浅井恵倫、泉井久之助、河野六郎、徳永康元、服部四郎の5氏が加わっている。

昭和39年度第1回委員会

日 時： 昭和39年4月11日 17:30~20:00

場 所： 学士会館本郷分館

出席者： () 内は委任状受託数(委員総数36名)

浅井恵倫、泉井久之助(4)、金田一春彦、高津春繁(3)、河野六郎(2)、柴田 武、鈴木孝夫、徳永康元(1)、服部四郎(7)、三根谷徹、村山七郎、山本謙吾。

議決事項：

1. 昭和38年度決算について承認(別記)。
2. 昭和39年度春季大会(第50回、於国際基督教大学)の日程その他について審議。
3. 第11回太平洋学術会議に関する件。
三根谷委員より、同会議組織委員会(人類学部門)で審議中の Symposium 及び Division Session の構想に関して報告があり、それに対する本会としての態度を討議した。なお、この問題については、今後も機会あるごとに審議して本会の態度を決定することになった。
4. 『言語研究』バックナンバーの価格は、在庫分はすべて各冊 500 円(\$2.00)、但し合併号については 1000 円(\$4.00)とする。
又、今後会費を改訂する時には、その会費年額に応じて、バックナンバーの価格も改訂することが決定した。

昭和39年度第2回委員会

日 時： 昭和39年5月17日 12:30~13:40

場 所： 国際基督教大学

出席者： () 内は委任状受託数(委員総数38名)

泉井久之助(1)、岩井隆盛、北村 甫、金田一春彦、高津春繁(2)、河野六郎(1)、小林英夫、柴田 武、関本 至、徳永康元(1)、西田龍雄、野上素一、服部四郎(1)、三根谷徹、村山七郎、山本謙吾、吉町義雄。白紙委任状 1。

議決事項

1. 会員総会の議題について審議した。
2. 昭和39年度秋季大会(第51回、於広島大学)の件。
 - .1. 大会運営委員長を関本至氏にお願いする。
 - .2. 開催日は11月14日(土)、15日(日)両日とする。
3. 九学会連合の昭和39年度共同課題「下北半島」の他にもう一つ別の共同課題を考慮するという方針について説明があり、他の学会から提案された題

目について討議したが、本会から提案すべき題目については、各自昭和39年5月24日までに金田一委員宛申し送ることになった。

4. 日本学術会議から同会議内に「人間科学に関する小委員会」を設置するにつき、本会より委員1名を推薦するよう依頼があり、泉井久之助氏自身より同会議は同氏を望んでいるとの報告があったので、同氏を推薦することとなった。
5. アジア・アフリカ言語文化研究所設置問題について委員長より現状報告があった。その要点は次の通り。
 1. 所長がまだ確定に至らないため、東京外国語大学学長が所長事務取扱となっている。
 2. 最近その設立準備委員の中から人事選考委員9名が選ばれて各部門の人事にとりかかることとなった。

昭和39年度第3回委員会

日時：昭和39年9月19日 16:00~18:30

場所：東大正門前ポルト

出席者：（ ）内は委任状受託数（委員総数36名）

川本茂雄、木村彰一、高津春繁(4)、河野六郎(1)、小林英夫、柴田武(1)、関本至(1)、徳永康元(1)、服部四郎(7)、村山七郎。

議決事項：

1. 昭和39年度秋季大会(第51回、於広島大学)の件。
 1. 大会日程は次の通りとする。

11月14日(土) 午後2時より 公開講演会
午後5時より 懇親会

11月15日(日) 午前10時~午後3時
研究発表会(休憩 正午~午後1時30分)
 2. 公開講演会の講演者及び講演題目は次の通り。

土井忠生氏：富士谷成章の装説をめぐって
川本茂雄氏：語学教育における新しい傾向——映画上映 (Center for Applied Linguistics 製作, 早稲田大学語学教育研究所提供)——
 3. 懇親会場は広島大学会館, 会費 500 円。
 4. 研究発表会発表者及び発表題目は次の通りとし, この順で行う。

午前の部

- (1) 国広哲弥氏：日英温度形容詞の意義素の構造
- (2) 愛宕八郎康隆氏：奥能登珠洲方言の準体助詞「力^o」について
- (3) 柏谷嘉弘氏：図書寮本文鏡秘府論に付せられた字音

- (4) 秦 隆 昌氏： 中世 Navarra 及び Aragón 方言音韻史における
Castilla 語の影響

午後の部

- (5) 堀井令以知氏： 虚辞否定について

- (6) 日下部文夫氏： 長音節の 1 トネーム量への組み込みを試みる
——日本語アクセントについて——

- (7) 和 田 弁氏： 場の概念による「基本語類論」

2. 昭和 40 年度の大会開催候補地について、春季は第 1 候補早稲田大学、第 2 候補東京大学とし、秋季は第 1 候補北海道大学、第 2 候補東北大学とする。
3. 『言語研究』バックナンバーの内、絶版分について、米国のジョンソン・リプリント社より同社の日本代表ジョン・ウェザヒル社を通じて、その複製発行の許可を要請してきたので、その可否を審議した結果、契約条件を更に慎重に検討した上で、許可を与えてもよいことになった。

◆本会委員原納一富氏は、昭和 39 年 2 月 29 日死去された

◆本会評議員・委員浅井恵倫氏は、東ニューギニア高山地帯のパプア族の言語調査の為、昭和 39 年 8 月 24 日羽田を出発された。帰国は 12 月末の予定。

昭和 38 年度会計報告

収 入		支 出	
前年度繰越金	9,749	刊行経費	378,570
会費(現金)	175,156	送送料	40,300
”(振替)	254,740	大会講演会費	55,195
雑誌売上金	48,070	通信費	38,063
補助金	70,000	事務用品費	4,300
寄付金	0	九学会分担金	5,000
利息	2,272	文科系学会連合費	3,000
		雑費	27,595
計	559,987		552,033

差引残高 7,954

『言語研究』

バックナンバー 価格表

13号	¥ 500	〒20	(\$2.00)	39号	¥ 500	〒20	(\$2.00)
26/27号	¥1,000	〒60	(\$4.00)	40号	¥ 500	〒30	(\$2.00)
34号	¥ 500	〒30	(\$2.00)	41号	¥ 500	〒30	(\$2.00)
35号	¥ 500	〒40	(\$2.00)	42号	¥ 500	〒30	(\$2.00)
36号	¥ 500	〒30	(\$2.00)	43号	¥ 500	〒30	(\$2.00)
37号	¥ 500	〒30	(\$2.00)	44号	¥ 500	〒30	(\$2.00)
38号	¥ 500	〒40	(\$2.00)	45号	¥ 500	〒40	(\$2.00)